

平成 22 年度

▼地域活性化システム論

10 月 16 日～12 月 18 日(土曜日 13 時～ 全 5 日間)

対象者：

岡山大学学生・地域活性化に関心のある企業・自治体・NPO 団体・県民・市民の方など

目的：農村地域の活性化に、農学がいかにかかわるべきかについて、当事者の自発的な協働として最近取りあげられている「新しい公共」という視点から、人や地域の絆の再編、再構築について、考察を深める。また、農学から見た福祉の取り組みや農学から見た産業としての農業とバイオマス利用との関係およびその現状を実践の現場からの情報に基づいて把握し、産官学民がそれぞれどのようにアプローチできるか、参加者全員で考えて行きたい。

第1回10月16日（土）13時～

「新しい公共」の創生と農学の果たすべき役割

第9回岡山大学農学部公開シンポジウム

I 開会挨拶(13:00～13:05)

岡山大学理事(教育・学生担当) 佐藤豊信



II シンポジウム (13:05～17:00)



テーマの解題

岡山大学大学院環境学研究科教授 小松泰信

最近注目されつつある「新しい公共」という視点を基軸にして、政策当局の担当者、研究者、そして農業者、計5名の方々からご報告を頂き、その報告内容に対するフロアーからのご質問への回答などにより、パネルディスカッションを行い、テーマに接近していきました。

基調報告

- (1) 「新しい公共」とは何か
—期待と課題—

内閣府公共サービス改革推進室長 館 逸志



まず、「新しい公共」について、「支え合いと活気のある社会」を作るための当事者たちの「協働の場」であり、そこでは、「国民、市民団体や地域組織」、「企業やその他の事業体」、「政府」などが、一定のルールとそれぞれの役割をもって当事者として参加し、協働する。そして、その成果は、多様な方法によって社会的に、また、市場を通じて経済的に評価されることなどを講演いただきました。

(2)「新しい公共」から見る農村問題
—ソーシャル・キャピタルの視点から—
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科講師 高尾総司

ソーシャルキャピタルに関して、理論的な説明をいただくとともに、徳島県上勝町での高齢化した農村の取り組みを事例に、人々の信頼関係や人間関係など、ネットワーク社会の構造と今後のあり方について講演いただきました。



(3)農ある世界における「新しい公共」の創生課題
石川県野々市町ぶった農産社長 佛田利弘

日本における現在の集落の成り立ち・歴史についてや、集落の機能と『新しい公共』との繋がりを平易に説明いただくとともに、佛田氏が経営している株式会社ぶった農産の取り組みや農業における『新しい公共』の創生課題について講演いただきました。



(4)日本の農村生活における驚きと感動
岡山県勝央町ブドウ栽培者 アリ・ソイル

結婚を契機に、果樹農家となることを志し、トルコより来日してからの就農の経緯など、異国でのさまざまな体験や地域とのつながり、起業にあたっての奮励などを流暢な日本語で講演いただきました。

(5)マンゴー栽培から見える農村生活

宮崎県南郷町マンゴー栽培者 池田陽子



農業とは無縁の環境で育った池田氏が、結婚を契機に農業デビュー、妻として、母として、栽培者として、女性ならではの視点で農業についてお話され、現在活動している「JAはまゆう女性部フレッシュミズ（45才以下の女性部員）での取り組み」や「農村生活の課題」について講演いただきました。

パネルディスカッション

コーディネーター 小松泰信

パネリスト 館逸志／高尾総司／佛田利弘／

アリ・ソイル／池田陽子

パネルディスカッションでは、当日の受講者に記載いただいた質問票（“トルコと日本のブドウの違いに関して” “ソーシャル・キャピタルを具体的にどう育てるべきか” など、さまざまな質問）を参考に、公衆衛生学・農業者・政策担当者、そして農学研究者、それぞれの立場から議論を深めていきました。



そして農学研究者、それぞれの立場から議論を深めていきました。

Ⅲ 閉会挨拶 (15:55～17:00)

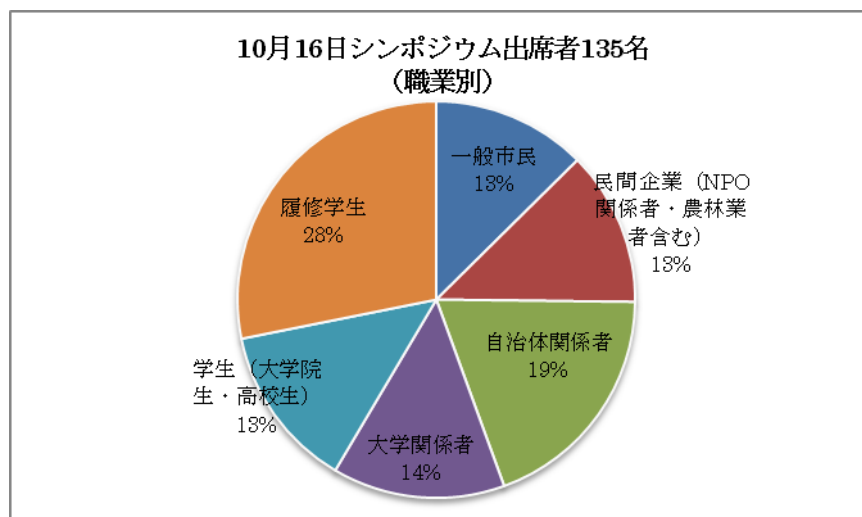
岡山大学農学部長 神崎浩

Ⅳ意見交換会(17:30～)

会場：岡山大学南福利施設(ヒューエオン)

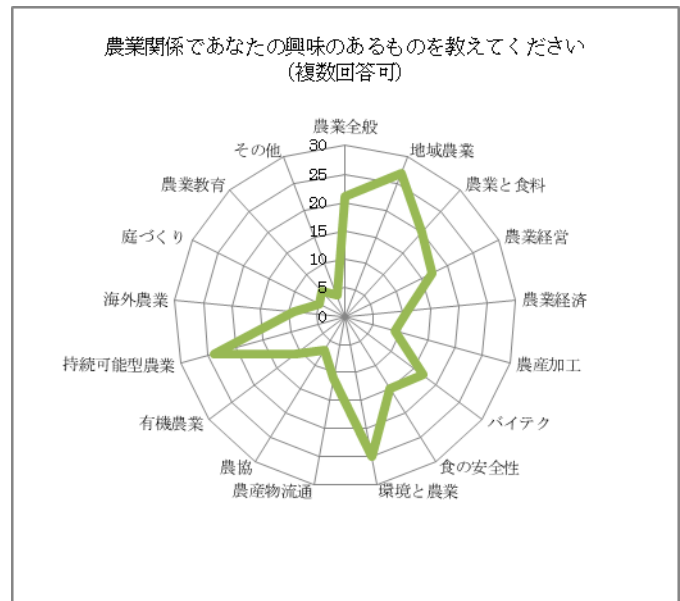
シンポジウム来場者アンケート結果

本学学生以外にも、高校生から社会人の方まで幅広い層の方に参加をいただきました。



農業関係で来場者の興味のあるものに関しては、(資料2)

- ◆農業全般
 - ◆地域農業
 - ◆農業と食料
 - ◆環境と農業
 - ◆持続可能型農業
- に關心のある方が多く、その他のご意見としては、
- ◇農村の生活環境
 - ◇福祉・保育等と環境教育
 - ◇畜産
- といったご意見もあり、さまざまな分野での關心があることを感じます。



後に履修学生へ行った『地域活性化システム論』に関する「学生アンケート」では、

- 「新しい公共」についての講演が印象に残り、勉強になりました。
 - いろいろな分野の話があり、自分が知らない分野が多いことに気づかされ、HP や本で調べるきっかけになった。
 - バイタリティーに富んだ人たちを見て、自分も頑張らなければと思った。
 - 同じ分野を違う方向から仕組みづくりをすることの重要性、勉強不足を実感した。
 - 全国の様々な事例を知り、研究することはとても大切だと気づき、興味のない分野にも目を向けるようになった。
- など、この講義をきっかけに視点・論点が広がり、自己啓発された学生のスキルアップにつながっていることを強く感じる講義であったことが示されています。

平成 20 年度より開催されている『地域活性化システム論』は、23 年度も開講予定です。本学学生はもちろん、地域活性化に関心のある企業・自治体・NPO 団体・県民・市民の皆様にも受講いただけますので、詳細が決まり次第に、農学部 HP にて発表いたします。